

国語 第5学年 伝記を読んで感想文を書こう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。成功の経歴の列挙にとどめず、どの経験や判断に心を動かされたかを本文で確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 「伝記を読んで感想文を書こう」 教材名 「手塚治虫」

2 単元の目標

伝記などの読書が自分の考えを広げる役割に気づき、関心に応じて本を読める。伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①伝記などの読書が自分の考えを広げる役割に気づき、関心に応じて本を読んでいる。（〔知識及び技能〕(3)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げている。（C(1)オ・C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。成功の経歴の列挙にとどめず、どの経験や判断に心を動かされたかを本文で確かめる。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

伝記に書かれた事実、自分が想像した思い、自分の経験を分ける。別の伝記を参照する場合は出典を添え、食い違いは確認する。人物への尊敬を強制しない。おおむね満足できる状況は、伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

第1次 第1時：○全文を読み、人物の歩みと印象に残った選択を確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○選んだ出来事の前後を読み、判断に関わる事実を整理する。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時（本時）：○人物の選択と自分の経験や考えを結び付け、感想文の中心を決める。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第4時：○感想文を書いて読み合い、内容の理解と自分の意見を確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第5時：○交流後に追記し、伝記から考えを広げたことを振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振

り返り)

6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げられる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」

【めあて】伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。

予想される児童の反応：・結果と選んだ理由の両方に興味をもった。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・結果と選んだ理由の両方に興味をもった。

・自分とは違う時代や条件も考えたい。

・同じ経験はなくても、判断の仕方を自分に引き付けられる。

指導上の留意点：伝記に書かれた事実、自分が想像した思い、自分の経験を分ける。別の伝記を参照する場合は出典を添え、食い違いは確認する。人物への尊敬を強制しない。

想定する難しさ：年表の要約だけで感想になる。偉人だから全て正しいと考える。未確認の逸話を加える。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げている。(発言と学習記録)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・同じ経験はなくても、判断の仕方を自分に引き付けられる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

